

ASEAN グローバルプログラム

笠見 知 希
Tomoki KASAMI
機械システム工学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日～9月6日にかけてベトナムとシンガポールにおいて、企業訪問、ハノイ工業大学生とのPBL、大学見学、海外で働くビジネスパーソンとの交流会等を含むASEAN グローバルプログラムに参加した。ここでは、本プログラムに参加した目的、研修で学んだことや考えたことを記す。

表1 研修日程

8月28日(火)	ハノイ着,オリエンテーション
8月29日(水)	企業訪問
8月30日(木)	PBL
8月31日(金)	PBL
9月1日(土)	観光、自由時間
9月2日(日)	WASABIでの講演会
9月3日(月)	南洋理工大学での各種プログラム
9月4日(火)	Googleでの講演会、加藤氏の講演会、ビジネスパーソンとの交流会
9月5-6日	自由時間、移動(帰国)

2. 参加目的

今回このプログラムに参加した理由は2つある。まず、海外に行き英語で現地の人とコミュニケーションをとることである。日本国内では英語を話すという機会が少ないため、海外に行き英語が日常的に必要な状況において積極的にコミュニケーションをとることが必須になると考えたためである。次に、ビジネスのグローバル化が進む中、海外で働くとはどういうことかについて知ることである。海外で仕事をしている方々が、どういう経緯で海外で働き始めたのか、日本と海外の違いはどこにあるのかということが知りたいと考えた。

3. 研修内容

3.1 研修の概要

研修は、大きく5つに分けられる。ハノイでの企業訪問、ハノイ工業大学生とのPBL、南洋理工大学の見学、シンガポールの日本人ビジネスパーソンとのトークセッション、シンガポールの企業講演である。本稿は、上記の行程のなかで最も学びの多かったシンガポールの日本人ビジネスパーソンとのトークセッションについて述べる。

3.2 シンガポールの日本人ビジネスパーソンとのトークセッション

9月4日(火)シンガポールにて4人のビジネスパーソンとのトークセッション及び、『若者よ、アジアのウミガメとなれ』の著者 加藤順彦氏の講演会が行われた。

ビジネスマンとのトークセッションでは、私がこのプログラムで知りたいと思っていた「海外で働き



図1 日本人ビジネスパーソンとのトークセッションの様子



図2 加藤順彦氏の講演会の様子

始めた経緯」「日本と海外の違い」について聞くことが出来た。「海外で働き始めた経緯」については、元々日本で働いていたが、働いていた会社には人が多くてなかなか英語を話す機会や海外に行くチャンスが無かったため、もっと英語を話すチャンスが欲しいと思って海外にいった方や、日本だけでビジネスをするのではなく、海外市場でもビジネスをした方が儲かるからといった方など多くの経緯があった。しかし、これらの方々に共通していたことは、学生時代の海外留学である。つまり、学生時代の海外留学の経験が、新しい人と知り合うことで文化や国の歴史、価値観の違いを知り大きく成長出来るきっかけとなり、その後のキャリアにつながるという。

次に、「日本との違い」については、このトークセッションに参加する以前は、シンガポールはアジアの一国であるので同じアジアにある日本と働き方が似ていると思っていた。しかし、シンガポールは、色々な人種が混在していることもあり、ワークライフバランスがほとんど1:1で、とてもプライベートを大切にしながら働いていること知った。

続いて、『若者よ、アジアのウミガメとなれ』の著者である加藤順彦氏の講演会では、新しい商売にこそ成長の可能性があるとおっしゃっていたことは印象深かった。昔からある商売では、すでに上位企業が独占している。また、GDPの伸びが小さい国よりもGDPが増えているアジアの国々など海外にも目を向けて成長の波に乗れる企業が新しい業界を作り、将来の大企業へとなる可能性を話されていた。これまでは“現在の有名企業に就職が出来れば将来は安定する”とばかり思っていたが必ずしもそうではないと思った。また、分析の大切さも知るこ

とが出来た。それは、何を始めるにも今現在の状況をまず分析し、その中で自分ならどう行動できるのか、自分にしか出来ないことは何かを考えて自分にチャンスがありそうなところに行く。このことは、企業に投資や就職するときだけでなく、日常生活におけるあらゆる事に適応できると思った。他にも、自分を取り巻く環境が人間をつくるという言葉も印象的であった。加藤氏はいくつもの会社を設立していて私には大変なことと思えるが、加藤氏の周りにはそうした方が多く、当人にとっては普通のこととおっしゃっていた。つまり、環境が人の行動を決めることを知った。このことから自分を取り巻く現在の環境をどのようにして良い方向へと変えるのか。また、自分だけで変えることが出来ない場合、新しい環境に適応する力が必要だと考えた。

4. おわりに

本研修では、グループでのPBL活動も行い、チームとして1つのことに取り組むことで自分の役割を理解し、責任感を持って取り組むことの大切さを学んだ。また、今の自分に何が足りないかを理解できたので、さらに自己分析し、目標を持って行動していきたいと思った。また、本研修の参加目的を2つとも達成できたと思えた。日常生活の中で話す英語には苦しむことは無く、言葉も通じていたので、その点では自信をもっていたが、企業訪問の際に本当に自分が聞いてみたいことが英語力の不足のために聞けなかったことが残念だった。だから、将来のために英語力の向上に取り組むべきであると思えた。最後に、今回、このプログラムに参加することが出来て本当に良かったと思えた。